



国立感染症研究所などの調査によると、2015年~2016年にかけて、新型ノロウイルスが流行する可能性があり、十分な注意が必要とされています。
今号では、日常におけるノロウイルスの予防について特集いたします。



新型ノロウイルスって？

ノロウイルスは、冬季に多発するウイルス性の感染症胃腸炎を引き起こす病原体として知られていますが、その種類は遺伝子の違いによって何十種類にも分類されています。また、遺伝子の組換えが頻繁に起き、しばしば新型のノロウイルスとなります。
2014年12月までは、GⅡ.4が主流の遺伝子型でしたが、食中毒事例を含む感染性胃腸炎患者から新たな遺伝子型のGⅡ.P17-GⅡ.17が検出され、調査の結果、この新規遺伝子型のノロウイルスが2015年の1月以降に広域流行を引き起こしていたことがわかりました。
新規遺伝子型のノロウイルスに対しては、免疫を持たない人が多い為、今後2015年から2016年にかけて大流行する可能性があります。既に中国や台湾でも流行が確認されており、十分な注意が必要です。

ノロウイルスの特長

ノロウイルスを効果的に予防する為に、その基本的な特徴を知っておきましょう。

- ①感染した際糞便や嘔吐物の中に大量にウイルス粒子が排泄される。
- ②回復した(症状が消えた)後も長期間ウイルスの排泄が続く。
- ③感染しても症状が出ない場合(不顕性感染)がある。
- ④不顕性感染でも糞便中にウイルス粒子を排出する。
- ⑤感染力が強く、10個~100個程度で感染・発病する。
- ⑥環境中で感染性を長期間維持し、なかなか不活化されない。
- ⑦エタノールが効きにくい。
- ⑧ウイルス粒子は小さく、除去が難しい。

出典 厚労省HP 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会 食中毒部会(平成25年10月30日) 配布資料

持ち込まない、広げない！

ノロウイルスの対策としては、感染者が出た場合の汚染物処理に意識が偏りがちですが、まずは徹底した手洗いと環境の清掃・洗浄を心がけましょう。

<手洗いの時間・回数による効果>

手洗いの方法	残存ウイルス数(残存率)*
手洗いなし	約1,000,000個
流水で15秒手洗い	約10,000個 (約1%)
ハンドソープで10秒または30秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎ	数百個 (約0.01%)
ハンドソープで60秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎ	数十個 (約0.001%)
ハンドソープで10秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎを2回繰り返す	約数個 (約0.0001%)

*手洗いなしと比較した場合

2回洗いが効果的！

出典 森功次他：感染症学雑誌、80：496-500,2006

<清掃・洗浄の意義>

- ウィルス量を減らす
- 有効な殺菌・消毒
- ウィルスの生存性の低下

<ノロウイルスの汚染が起こりやすい場所>

- 手指が触るところ
- 糞便が汚染するところ
- 嘔吐物が汚染した場所

(例)

- 水道の蛇口
- トイレの便座、ふた
- ドアノブ
- 洗面台

etc.

[出典] 国立感染症研究所 IASR VOL.36 p175-178：2015年9月号

厚労省HP 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会 食中毒部会 配布資料 (一部改編)

薬用ハンドクールV 1kg (4袋/ケース)



5倍濃縮の薬用ハンドソープ。
希釈倍率のバラつきを防ぐパウチ包装入れ切りタイプ。

専用フォームディスペンサを使用すれば、泡で出力。

Pro+ プロプラス 防菌ウェットワイパー



バケツ (4個/ケース) 150×300mm 200枚分
詰替用 (6袋/ケース) 150×300mm 200枚分

「第四級アンモニウム塩」を対象物の表面に固定化できるようにした化合物(特許成分Etak®)を配合